

## 皮膚科初期臨床研修プログラム(選択科)

研修責任者 大場 操

研修期間 4週～

### I. 対象となる疾患・病態

皮膚疾患全般。しかし、何科に進んでも役にたつような日常遭遇する皮膚疾患が中心になる。  
湿疹・皮膚炎群としては、アトピー性皮膚炎、接触性皮膚炎など。かゆみの強い蕁麻疹・痒疹群。感染症としては単純性疱疹、水痘、带状疱疹などのウイルス感染症、膿痂疹、ブドウ球菌性熱傷様皮膚症候群（SSSS）などの細菌感染症、白癬、カンジダなどの真菌症、老人病院などで問題となる疥癬や結核、性行為感染症による梅毒など。  
物理・化学的障害としての薬疹、中毒疹。付属器の炎症性疾患としてのざ瘡、汗疹、酒渣、脱毛症。膠原病としては、全身性エリテマトーデス、慢性円板状エリテマトーデス、全身性強皮症、限局性強皮症、皮膚筋炎。血管病変としてのアナフィラクトイド紫斑、慢性色素性紫斑。炎症性角化症として乾癬、膿疱性乾癬、関節性乾癬。水疱症として天疱瘡、類天疱瘡、肉芽腫としてのサルコイドーシス、環状肉芽腫などがあげられる。腫瘍性疾患としては脂漏性角化症、有棘細胞癌、基底細胞癌（基底細胞上皮種）、悪性黒色腫、悪性血管内皮細胞種、悪性リンパ腫などが代表的な皮膚疾患となる。

### II. 研修到達目標

- 一般目標(GIO ;General Instruction Objective)①
  - 1) 患者の主訴である皮膚病変とその患者背景を理解する。
  - 2) 基本的な皮疹の観察技術を学ぶ。
  - 3) 主要な皮膚症状と皮膚疾患を理解する。
- 行動目標 (SBOs ;Structural Behavior Objectives) ①
  - 1) 初診患者の予診をとり、皮膚症状を含む全体像を把握する。
  - 2) 初診患者の診断を推定し、鑑別診断を考慮する。
  - 3) 症例を絶えず指導医と検討し、症例を理解する。
- 一般目標 (GIO ;General Instruction Objective) ②  
主要な皮膚疾患のうち、日常診療で遭遇する機会の多い症例を多数経験する。
- 行動目標 (SBOs ;Structural Behavior Objectives) ②
  - 1) 系統立てた基本的な病歴を聴取できる。
  - 2) 皮膚所見を適切に把握し、症状を表現できる。
  - 3) 皮膚症状に対する治療薬を理解し、適切に投与できる。
  - 4) 小手術の執刀を行う。
- 一般目標(GIO ;General Instruction Objective)③  
皮膚科で入院を必要とする疾患の取り扱いを経験する。
- 行動目標 (SBOs ;Structural Behavior Objectives) ③  
皮膚のみならず、全身状態の理解が必要である。

### III. 方略(研修場所：外来・病棟)

基本的には午前は外来、午後は手術・検査・他科患者の依頼に対応する。  
皮膚科専門医が2名で指導する。  
定期的な専門医からのレクチャーがある。  
週に1回与えられたテーマの報告を行う。  
随時、生検、手術標本の病理検討会を行う。

### IV. 評価

指導医との検討、症例検討会での症例提示、文献的な考察を加えてのレポート作成などを通して随時評価を行う。

## V. 研修医への提言

患者さんの社会的背景を理解し、良好な関係を構築できるようになる。

また、社会人、医療人としての態度、服装、言葉使いには心がける。

1人で診療はできないので、医療スタッフと良好なチーム医療を実践して欲しい。